

## 平成25年度 第1回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成25年5月23日（木）18:30～20:20  
横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者 12名…根本、河村、浅羽、井上、柏崎、神津、早川、古田、前川、吉田（弘）、吉田（正）、佐藤  
欠席者 1名…澤田  
事務局 2名…市民生活課 松尾、川瀬  
指定管理者 2名…NPO法人YMCAコミュニティサポート 高橋、大島理  
傍聴者 1名

配布資料 1 利用状況・利用者の声  
2 平成24年度事業報告  
3 平成25年度事業方針・計画書  
4 サポートセンター登録団体一覧  
5 夏の市民活動・ボランティア体験企画書  
6 平成25年度市民協働推進補助金・企画提案型市民協働モデル事業審査結果  
7 新印刷機設置と料金変更について

次第に入る前に、事務局より附属機関と附属機関に準ずる機関の見直しに基づいて要綱の改正が行われたため、市民活動サポートセンター運営委員会から運営懇話会に名称が変わったことについて経緯を説明した。

その後構成員に対して運営懇話会への出席について市長からの依頼文を手渡した。

### 1 報告事項

#### [意見概要]

#### 1-（1）利用状況・利用者の声について

指定管理者及び事務局から、当日配布の資料1に沿って報告した。

（指定管理者）

- ・平成24年度の利用者数は43,682名で、過去5年間右上がり利用者数が増えている。これまで千数百名程度ずつの伸びであったが、24年度は若干伸びが緩やかになっている。前年同月を下回る月が何回かあった。利用者の増加を図るためにテコ入れしていきたい。
- ・登録団体数については、開館以来増えている。21年度が437と下がっているが、これは以前にも説明したように、NPO法人は途中でなくなったり、他の場所を見つけて動いたり様々な事情があるので、今後サポートセンターを継続して使うかどうか全団体に確認し、一度クリーニングをしているため。24年度は525団体だった。

（市民生活課）

- ・平成24年度久里浜市民活動サポートセンターの利用者数は2,772名、利用団体数は1,146団体で、23年度と比較すると、団体数は微減だが、利用者数は約100名増加している。1年間通しては4月の

利用が多い。追浜市民活動サポートセンターの利用者数は2,459名で、23年度から59名増。団体数も23年度と比較して33増加の903団体。今夏、久里浜と追浜に設置されているコピー機が一新される予定なので、今後利用者を増やすべく工夫をしていきたい。

(指定管理者)

- ・ロッカー・レターケースについては、ロッカー大・小は申込数が定数オーバーしたため抽選を行い、レターケースのみ若干の余裕がある。
- ・館外貸出備品のワイヤレスアンプについては、新しいものが入り、現在調整中、近日中に貸出開始の見込み。
- ・印刷機、コピー機の利用状況については資料のとおり。印刷機の利用料金については、後ほど改めて説明する。
- ・利用者の声については、2月に製本機の購入希望があったが、利用頻度がさほど多くないかと想像されるので、現在のところ保留中。3月には携帯電話の使用について苦情があった。これまでも同様の苦情、使用制限要望があったが、当方としては公共の場ではあるものの、活動の一環として携帯電話を使用することも考えられるため制限していない。ただし、オープンスペースでのマナーとして周りに配慮しながら使用いただくよう、掲示等で利用者の皆さんにお願いしているところである。また、エスカレーター側入口のドアの開閉がスムーズでないことについては、現在業者に確認、調整してもらっている。また、4月に市民生活課主催の留学生向けの説明会が行われた際、マイクを使用したことについてルール違反ではないかというご意見があった。規定でマイク使用を禁じてはいないが、利用案内には大きな音、大きな声での活動はできないという記載がある。この点から言えばマイク使用は適切ではないが、現実には年数回説明会等でマイク使用している。今後もセンター全体を使用するようなイベントではマイクを使用せざるを得ないだろう。事前連絡や、当日の場所割り、丁寧な説明など運用面で対応していきたい。また、裁断機の老朽化により使用時に紙が汚れてしまう苦情があったが、今月新しいものが導入される。
- ・活動紹介コーナー利用状況に関しては、ほぼ埋まっている。昨年度は11月17日～30日の横須賀学の会「デッカー司令官夫妻の写真展」が人気で、約600名の来場があった。いい企画展には人が集まるので、積極的な声掛けや、いい企画を呼び込む努力をしていきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・アンプは2台になるのか。  
→原則貸出しは1台だが、古いものは予備として保管する。ただし音が時々切れる。原因不明なので直しようがない(指定管理者)。
- ・活動紹介コーナーのデッカー司令官夫妻の写真展に来場者が多かったとのことだが、これはサポートセンターで特別な広報を行ったのか、それとも学の会が積極的に進めたものか。  
→サポートセンターでも通常の広報は行ったが、基本的には学の会の努力によるものと考え。学の会は本の作成からずっとサポートセンターで活動を行ってきたので、ここを中心として発信をしていったという経緯はあると思う(指定管理者)。
- ・学の会さんにどのような広報を行ったのかぜひ教えてもらって役立ててはどうか。サポートセンターだけでなくほかの会、団体にも使えるノウハウを教えてもらえれば。

指定管理者から当日配布の資料2「YMCA コミュニティサポート 2012 年度事業報告」に沿って、報告した。一部、参考として YMCA コミュニティサポートに関する事業活動の報告もあった。

### ①サポートセンター運営管理事業について

(指定管理者)

- ・施設のレイアウトについて印刷機等の作業スペースの変更を行い、好評を得た。
- ・NPO 法の改正に伴い相談が増えている。スタッフも研修を受け、法人の設立、新会計基準等について基礎的な対応はできるようになっている。
- ・連絡調整業務としては、児童虐待防止のイベント・朗読劇「ハッピーバースデー」を行った流れで市内の色々な団体と連絡が取れ、今後活かせるようになってきた。
- ・のたろんフェアについては来場者が 6,300 人を超えて好評。

### ②自主事業について

(指定管理者)

- ・自主事業というのはサポートセンターの設置目的に合致して、指定管理者の意志で、市の承認を得たうえで自己の責任において行われる事業。
- ・のたろんフェアから派生したこたろんフェアは今年度5月に3回目が行われ定着した。
- ・若者の人材育成には力を入れている。昨年の特徴としてボランティアセンターと協働で夏の市民活動とボランティア体験を行い、小中学生の体験が増えた。
- ・NPO 法の改正に伴う説明会、セミナー、学習会を三浦半島エリアに呼びかけ、逗子とは協働で行うことができた。鎌倉とは日程等が合わず実現できなかった。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・東日本大震災支援事業について、多くの人が岩手・宮城・福島の3県を被災地としてとらえているが、青森や千葉もかなりの被害を受けていることを忘れないでほしい。
- ・朗読劇「ハッピーバースデー」は大変良いものだったのでぜひまたやってほしい。  
→また横須賀で、というのはすぐには難しいが、11月には関内でやる予定。実行委員会の山崎委員長が上演の収益を寄付したNPO法人神奈川子ども未来ファンドの理事長になったことを報告しておく。
- ・逗子市市民活動推進センターと講座の協働実施とはどのようなものか  
→県からお金を受けた団体のひとつであるNPO法人よこすかパートナーシップサポーターズの藤沢氏がYMCAに話をもち込んで、高橋館長から逗子や鎌倉に声をかけ、逗子との協働が実現。4回講座のうち3回を横須賀のサポセンで、1回を逗子で実施。サポセン同士は研修等で顔を合わせることはあるが、協働実施はあまりない。今後逗子、三浦、鎌倉等と協力していきたい(指定管理者)。
- ・民間事業では横須賀と逗子は近い。鎌倉は参考にはなるがやや遠い。戸塚等の方がかえってうまくいくかもしれない。  
→逗子サポセンは懇話会を持っているが、当館長がメンバーに入っているので連携が取りやすい。鎌倉も連絡を取っているが組織自体が違うようで連携までには至っていない。夏のプログラム等もユニークなので参考にしたい。三浦は行政の中に組み込まれているが、地域のNPOと結びついている。環境系では横須賀と三浦の境はないので何かの形で連携していけたら面白いと思う(指定管理者)。

- ・三浦は行政の中に組み込まれているということだが、どのような体制なのか。サポートセンターはあるのか。役所の中のいち組織なのか。  
→担当課の中に組み込まれていて若干のスペースがあったように思う（指定管理者）。
- ・三浦にきちんとしたサポセンができれば横須賀のサポセン利用者が減るのでは。  
→逆に三浦とも連携しながら全体で増えていく方向に持って行きたい（指定管理者）。

### 1-(3)平成 25 年度事業計画

指定管理者から当日配布の資料3「YMCA コミュニティサポート 2013 年度事業方針・計画書」に沿って報告した。一部、参考として YMCA コミュニティサポートに関する事業活動の報告もあった。

#### ①サポートセンター運営管理事業について

（指定管理者）

- ・施設の備品、機材関係の見直しについてコピー機等の使い勝手を良くするため現在計画中。
- ・情報収集提供業務としては CMS を導入したい。
- ・連絡調整業務としては、24 年度、「ハッピーバースデー」で連携が強まったので薄まらないうちに今年、来年力を入れて続けていきたい。生涯学習センターやボランティアセンターだけでなく、企業や三浦半島サポセン関係などとも連絡調整していきたい。

#### ②ボランティア・市民活動人材育成事業

（指定管理者）

- ・過去数年言い続けてきているが、若者と団塊の世代の取り込みを行いたい。若者については県立福祉大学と関東学院大学との連携がかなり強まってきている。
- ・学生ボランティア「さぽせんサポーターズ」について他大学への展開を行っていきたい。活動の場所を広げたり、学生ボランティアに対して研修を行うことも考えている。
- ・自主ボランティアグループ「ぼびーぐみ」はこれまでまちの美化活動を行ってきたが 24 年度から児童養護施設でのボランティア活動が順調。さらに発展させていきたい。
- ・夏のボランティア体験では生涯学習センターとの連携も今夏より始まる。
- ・団塊の世代の取り込みは、24 年度思うようにいかなかった。交流会をやって参加はあってもそこから発展がない。現在サポートセンターのイベント手伝いを主にしている「4S」が企画提案をするなど、そこを窓口にして取り込めないかと検討中。
- ・日々のサポートセンターの運営から、企画運営にまで携わってくれるようなボランティア育成をしたい。

#### ③市民活動の「場」創出事業

- ・のたろんフェアから生まれたこたろんフェア（福祉系、作業所に特化）、またチャイルドファクトリー（子どもたち対象）などカテゴリーごとに集まる場を創出する。今年はフェアトレード（社会的に不利な立場に立たされている人々を商品の生産・流通・購入を通じて支援する運動）を考えている。
- ・朗読劇で企業から協賛あったので、つながりが切れないように地元企業の CSR（社会的責任、社会貢献）と連携する場を創る。

#### ④NPO 支援事業

- ・24年度 NPO 法人の聞き取り調査冊子を発行したが、続編の準備を計画中。

#### ⑤情報の収集発信をネット上で行う事業

- ・現在サポートセンターの HP には原則サポートセンターから発信する情報を載せており、外から寄せられた情報はのたろんジャーナルという形で発信している。これを出来るだけ拡大していきたい。最終的なゴールはサポセンに置いているチラシがすべてネット上に上がるような状況を想定している。実現には費用がかかるが、NPO でそうした事業を支援するところもあるので、できるだけお金と手間をかけずに今年（あるいは来年持ち越すかもしれないが）事業として行いたい。

#### ⑥市民活動促進指針のステップ評価と実現事業

- ・現在のサポセンは第2ステップにいる。第3は行政が手を引いて民-民間の力でネットワークを強めていくというステップになるが、全国の市民活動サポートセンターがこれを目指しているがどこも行き詰っているのが現状。民間が民間を支援していく新しい社会に向けて将来像を検証したり、過去十数年間の歩みを評価しこの先どのようにしていけば良いか考える場所を今年度作りたい。運営懇話会なのか、新たに興味を持つ人を集まってもらうのか検討中。

#### ⑦東日本大震災支援事業

- ・だいぶトーンダウンしてきたが、現在なお70世帯が横須賀市に避難しているのでその支援を継続していきたい。

#### ⑧地域の課題への対応事業

- ・昨年から進めている朗読劇「ハッピーバースデー」の流れで児童虐待といじめの啓発活動を継続する。ぽぴーぐみの活動として、児童養護施設の支援事業としてかなり実績をあげている。現在交通費もすべて学生の自費となっているが今年度は資金のめどがつきそうなので、交通費は手当てできそう。将来的には交通費と研修費などが手当てできるよう支援体制を整えたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・事業計画②に団塊の世代取り込みということがありますが、市民生活課でも定年退職者の市民活動参加を促す啓発事業があるので、連携を考えていきたい。
- ・地域運営協議会やサポートセンターがらみの市民活動団体などいろいろあるが、市民生活課市民協働推進担当として協働への総合的な働きかけをお願いしたい。地域運営協議会やサポートセンターのことなど、地域の人々にはまだ理解されていない。
- ・これから取り込んでいこうとする対象として、若者と団塊の世代が挙げられているが、もうひとつそれらの中間に位置するアラフォー世代も加えてはどうか。  
→確かにその通り。しかしアラフォー世代が一番難しい（指定管理者）。
- ・魅力があれば入ってくると思う。これからアイデアを出し合ってチャンスを作る試みをしていかなければ。
- ・団塊の世代はボランティア活動がどういうものか分かっていないからなかなか入っていけない。情報

を発信し、興味を持たせるような企画を検討しないといけない。

→夢物語ではあるが、「コワーキング」というスタイルがある。渋谷などで若者から 40 代くらいの人々の間ではやっている、様々な業種の人が一カ所に PC を持ちこんで仕事をする。隣に座っている人は全然別の仕事をしているが、コワーキングというひとつのグループの中で知り合いになって、そこから起業をしたりすることもある。NPO でコワーキングをしているところもすでいくつかあり、区内の方にはさくら WORKS というところが雑居ビルの一部を貸してコワーキングを実施している。利用者は 20~40 代くらい。そういうものがここで出来れば若い人が集まってくるのでは、という考えがある。ただボランティアだけだとなかなか人が集まらず、コミュニティビジネスなどの企業家とかグレーな部分も含まれるようになると思われる。サポートセンターの利用目的や、インフラ整備なども考えなければならぬのですぐには難しい。ここで計画として話す段階ではなく、頭の中にあるだけ（指定管理者）。

- ・人に来てもらうためには知ってもらわないといけない。市民活動という言葉も馴染みがない。どうやったら中間世代に知ってもらえるか。広報よこすかも情報広場も興味がない人は読まない。いっぺんには無理だと思うが、学生さんに対してはうまく取り込めるようになってきているとすれば、彼らが卒業しても残ってくれるような形にしていければ。

団塊の世代はそれまで現役でバリバリ働いてただけに市民活動をしている暇はない、という人もいれば、またそれなりにプライドも持っていると思う。活動への取り込みは大変だと思うが、「4S」の人々と一緒に携わっていても、力と知識を持っていることはわかる。やはりそういう人たちに入ってもらって、また学生さんたちと世代間交流ができればお互いに勉強になるので、是非すすめてほしい。

- ・団塊の世代と中学生のような若者との交流は良い結果を生むだろう。地域運営協議会や市との協働事業などでもお互い知らない者同士で誤解や思いこみが交流を阻害している面もあると思うので、市やこの運営懇話会でもギャップを取り除く努力をしていきたい。

→地域運営協議会について簡単に説明すると、町内会と自治会が 95%以上設置されている横須賀でも、高齢化や地域活動に無関心な人々が増えてきたことで地域のコミュニティ活動が維持できなくなる現状があり、町内会だけでなく、社協、PTA、観光協会、商店街など地域で活動している団体が一堂に集まり、連携していけば色々なことが解決できるのではないかということで、地域運営協議会をつくることになった。現在横須賀では 7 地区で地域運営協議会をつくり、課題解決のために話し合いを進めているところ（市民生活課）。

## **2-(1)市民公益活動団体について**

指定管理者より前回以降の新規登録 15 団体について説明があった。

(指定管理者)

- ・いつもここで話題になるのは趣味的な活動について公益性を認めるかという点だが、朗読グループなどは提出の企画については一般市民も参加可能であり、学びの会という面もあることから公益性を認めている。また慰問活動をしている団体には公益性ありと判断している。

(事務局)

- ・団体名と活動内容がマッチしないものがある。団体が書いたとおりなのだと思うが、受付時に確認するなど注意してほしい。
- ・登録 DB 全体のなかで、活動内容が入っていないものがあるので確認しておいてほしい。

- ・公益で登録をする場合は、公益性を感じられるような活動内容にするなどより厳密にすべきでは。

### **3-(1)夏の市民活動・ボランティア体験2013について**

指定管理者より資料5の企画書について説明があった。

(指定管理者)

- ・前回と同じくよこすかボランティアセンターとの協働開催。今年は生涯学習センターの協力も得られることになった。協働とまではいかないが、イベント冊子で1ページ割いて生涯学習センターの学習会を紹介し、代わりに生涯学習センターのネットワークを通じて夏の体験をPRしてもらうことになっている。
- ・現在参加団体募集中、5/25〆切だが現時点で23団体25イベントが予定されている。加えてボランティアセンターが8イベント程度入るので、去年と同程度になる予定。
- ・今年は学童クラブに参加の働き掛けをし、親子で楽しめるボランティア活動をPRしていこうと計画
- ・県立保健福祉大学では7/9に出張PRを予定。関東学院大学では去年ロビーにブースを出して出張PRしたが、今年は授業内にできるのではないかと話を進めているところ。

### **3-(2)平成25年度市民協働推進補助金・モデル事業選考結果について**

市民生活課より資料6の選考結果について説明があった。

(市民生活課)

- ・市民協働推進補助金については18企画の応募に対して11企画選考された。  
モデル事業については自由テーマも含め5件の応募があったが、市から提案した看護師確保対策事業に対し応募した1団体が採用された。
- ・今後広報等で各団体のイベント等が発信される予定なので、興味があればぜひ参加を。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・団体によって補助金の額は違うのか。  
→市民協働推進補助金は上限50万円だが、基本的には初めに団体側が交付希望額を申請して、そのまま通ることもあるし、減額をお願いすることもある。今回は75,000円から380,000円まで交付額は事業の内容に応じて様々(市民生活課)。
- ・補助金が出ない団体もあるのか。  
→選考された団体についてはすべて補助金が交付されるが、今回は7団体が審査で落ちて補助金が交付されなかった。横須賀市の審議会にて団体のプレゼンテーションと応募書類から審査を行っている(市民生活課)。

### **3-(3)印刷機の料金改定について**

指定管理者より当日配布の資料7について説明があった。

(指定管理者)

- ・24年度に指定管理の選考があり、25年度から新たに指定管理の協定を締結した。ここで印刷機については市から指定管理者が運営することになり、良い機会なので印刷機を更改することにした。

旧型は写真等が前の利用者の版が残ってしまったりして質が悪かった。最新のRISOの機種を3台導入する。加えて予備機として2台入る。スピード、解像度、故障頻度ともに改善が見込まれる。

これに伴い、料金改定を行いたい。従来1製版につき100円であったが、印刷機のコストは製版代と1枚印刷する毎のインク代がそれぞれかかる。他の支援組織はどこも製版代+プリント枚数×単価の合算になってきている。当サポートセンターでも印刷機が新機種になるとともにコインベンダも変わるが、このコインベンダ自体製版代のみを徴収するというスタイルに対応しておらず、新しい料金体系にすることについてご理解いただきたい。

新しい料金は製版代50円+印刷1枚あたり0.4円になる。1製版あたりの印刷上限数はない(ただし、3000枚を超すと製版をやり直したほうがいいと、メーカーからは言われている)。10円未満は切り捨て。周知期間を1か月設けたいので、7月1日から改訂を行う。

近隣のサポセン的支援組織を調べた限りでは一番安い単価ではないかと思う。

印刷枚数100枚とすると印刷料金が従前100円だったが、新料金では90円になる。対してマスターとインクの消耗品コストを計算すると60.60円になる。実際にはさらに維持費としてリース料と保守料が加わる。年間の料金収入と消耗品+維持費の支出計算を行うと、新単価ではひと月あたり33,000円、年間40万円の収益が出る。印刷料金については実費程度の徴収と指定管理協定に定められているが、年間40万円の収益は、印刷機管理の人的対応などから妥当と考える。

利用者にとっては、機能アップすること、120~130枚以下で印刷する場合にはこれまでよりも安く上がるというメリットがある。大量に印刷する人は当然高くなるが、受益者にとって公平な料金体系になるので、ご理解いただきたく、周知を勧めていきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・鎌倉の市民活動サポートセンターではプロジェクターなどの貸出しもお金がかかる。
- ・年間の保守料金の中にインク代とマスター代は含まれているのか。  
→含まれていない。消耗品は別に計算している(指定管理者)。

## **連絡事項**

(事務局)

- ・今年度は平成25年8月22日、平成25年11月21日、平成26年2月20日のいずれも18時30分から20時00分という日程で開催したい。ご出席くださるようお願いしたい。

以上